

# IX 学 歌 等

- 1 京都大学学歌
- 2 学生歌
- 3 応援歌
- 4 逍遥の歌

# 1 京都大学学歌（昭和15年1月18日制定）

- |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| (1) 九重に | 花ぞ匂へる   | (2) 緑吹く | 樟の葉風に   |
| 千年の     | 京に在りて   | 時の鐘     | 継ぎて響けば  |
| その土を    | 朝踏みしめ   | 人の世に    | まこと立つべく |
| その空を    | 夕仰げば    | 現身に     | まこと立つべく |
| 青雲は     | 極みはるかに  | たまきはる   | 命をこめて   |
| われらの    | まなこをむかへ | いしずえ    | 堅く築かん   |
| 照る日は    | ひかり直さし  | 伸びゆく    | 強き力の    |
| われらの    | ことばにうつる | 日出づる    | 国の子我等   |



初代総長 木下廣次先生の揮毫

水梨 彌久 作詞

下総 皖一 作曲

♩ = 138位

軽快に

*mf* やや荘重に

(一) コ コ ノ エ ニ ハク  
(二) み ど り ふ く

ナ ゾ ニ ホ ヘル センネン ノ ミ ヤ コ ニ ア リ  
す の は か ぜ に と き の か ね つ ぎ て ひ び け

*mf* *f* *mf* *f*

テ ソ ノ ツ チ ヲ ア シ タ フー ミ シ メ ソ ノ ソ ラ ヲ ユ  
ば ひ と の よ に ま こ と た つ べ く う つ せ み に ま

*mp* 快活に

ウ ベ ア ヲ ゲ バ ア オ グ モ ハ キ ワー ミ ハ  
こ と た つ べ く た ま き は る い の ー ち を

*mf*

ル カ ニ ワ レ ラ ノ マ ナ コ ラ ム カ ヘ テー ル ヒ ハ ヒ カ リ タ ダ サ  
こ め て い し ず え か た く き づ か ん の ー び ゆ く つ よ き ち か ら

*f* *ff*

シ ワ レ ラ ノ コ ト バ ニ ウ ツ ル ー  
の ひ い づ る く に の こ わ れ ら ー

学歌は、昭和15年（1940年）1月18日、告示第1号によって制定されたものである。

その歌詞は、前年の5月から11月にかけて学内で公募されたもので、その応募作品から1等選ばれた昭和13年本学文学部国語国文学専攻卒業生の水梨彌久の作品である。

また、作曲は、当時、東京音楽学校の助教授であった下総皖一に依頼したものである。

—「京都大学70年史」による—

## 2 学 生 歌

長崎 太郎 作詞

芥川 徹 作曲

Tempo di Marcia

(♩ = 114)



- |                            |                         |                          |
|----------------------------|-------------------------|--------------------------|
| (1) 光溢るる蒼空に<br>尊き命育みて      | 無限の時を刻みつつ<br>真理の途に励ましむ  | 逝きて帰らぬ青春の<br>吾等の誇学の塔     |
| (2) 嗚呼ここにも東西の<br>八つの灯火掲げつつ | 思想の潮渦巻きて<br>学徒吾等の抱りて立つ  | 荒るる怒涛の地を打てど<br>岩根は固し学の塔  |
| (3) 楠の大木に風薫り<br>自由独立自治を求め  | 萌ゆる若葉に陽は映えて<br>吉田山辺に学舎を | 今日廻り来ぬ記念の日<br>創めし大人を偲ぶかな |
| (4) 嵐雄叫ぶ唯中に<br>国敗るとも外国に    | 学の自由を譲りてし<br>学の誉を弥高く    | 不拔の信念君知るや<br>挙げし功を思わずや   |
| (5) 朝靄曳きて黙深き<br>比叡の大嶺を背にし  | 巷を覚ます時の声<br>光を高く掲ぐなる    | 闇に暮れゆく都路に<br>吾が学塔に栄あれ    |

(昭和28年6月18日学生歌公募入選作)

### 3 応援歌

中川 裕朗 作詞  
多田 武彦 作曲

しんせい の いぶきにみちて いぶきにみちて  
やくどうの わかきかいなにしょうりわかたん  
まもれ まもれ まもれほこうの  
えーいーよー きょうーとだいが  
くきょうとだいがく

- (1) 新生の 息吹きに充ちて 息吹きに充ちて  
躍動の 若き腕に 勝利分たん  
守れ 守れ 守れ 母校の栄誉  
京都大学 京都大学
- (2) 麗しき 吉田の里に 吉田の里に  
幾星霜 鍛えし力 ここに尽さん  
示せ 示せ 示せ 母校の伝統  
京都大学 京都大学
- (3) 公明の 日輪のもと 日輪のもと  
高鳴るは 希望の凱歌 自由の潮  
たたえよ たたえよ たたえよ 不滅の光  
京都大学 京都大学

(昭和33年制定)

## 4 逍遙の歌

沢村胡夷 作詞作曲

- |  |  |   |
|--|--|---|
| (1) 紅萌ゆる岡の花<br>早緑匂う岸の色<br>都の花に嘯けば<br>月こそかかれ吉田山       | (2) 緑の夏の芝露に<br>残れる星を仰ぐ時<br>希望は高く溢れつつ<br>我等が胸に湧きかえる   | (3) 千載秋の水清く<br>銀漢空にさゆる時<br>通へる夢は昆崙の<br>高嶺の比方ゴビの原    |
| (4) ラインの城やアルペンの<br>谷間の氷雨なだれ雪<br>夕はたどる北溟の<br>日の影暗き冬の波 | (5) 嗚呼故里よ野よ花よ<br>ここにも萌ゆる六百の<br>光も胸に春の戸に<br>嘯き見ずや古都の月 | (6) それ京洛の岸に散る<br>三年の秋の初紅葉<br>それ京洛の山に咲く<br>三年の春の花嵐   |
| (7) 左手の文にうなづきつ<br>夕の風に吟ずれば<br>砕けて飛べる白雲の<br>空には高し如意ヶ嶽 | (8) 神楽ヶ岡の初時雨<br>老樹の梢伝う時<br>檠灯かかげ口桶む<br>先哲至理の教にも      | (9) 嗚呼又遠き二千年<br>血潮の史や西の子の<br>栄枯の跡を思うにも<br>胸こそ躍れ若き身に |
| (10) 希望は照れり東海の<br>み富士の裾の山桜<br>歴史を誇る二千載<br>神武の兒等が立てる今 | (11) 見よ洛陽の花霞<br>桜の下の男の子等が<br>今逍遙に月白く<br>静かに照れり吉田山    |   |



紅もゆる歌碑